



斎王まつり（明和町） 斎王が伊勢に群行された様子を再現する、雅やかな王朝絵巻の「斎王群行」をメインに、禊の儀、太鼓、斎王の舞、斎王市、花菖蒲展など多彩な催しが行われる。毎年6月の第1週末の2日間にわたって華やかに開催されます。 写真提供：三重県観光連盟

目次・主な内容

■ Top News 理事・役員会

2

■ 会員発HOTニュース

13

■ トップインタビュー

4

■ 委託事業 News

14

■ 三重経協ニュース

6

■ 三重労働局 News

16

■ リレー随想

11

■ 事務局 News

17

■ 大学紹介

12

■ 業務日誌

18

理事・役員会開催

3月25日(木)プラザ洞津3階「孔雀の間」において、理事・役員会を開催いたしました。当日は、28名の参加者がありました。



理事会で挨拶する奥田会長

1. 会長挨拶要旨

日本経済も回復基調にあります。生産・輸出货量とも金融危機前のピーク時の2割減程度にとどまっています。これは約20年前の水準です。政治の問題、追いついてくる東南アジアの問題等々を見ておきますと、このままで良いのかと不安を感じる訳でございます。

このような中、日本にも成長フロンティアは数多くあります。その中の一つに、日本社会が抱える少子・高齢化問題も、見方を変えれば新しいビジネスチャンスであると言えます。働いている女性の約7割が、出産を機に退職しています。女性が働きながら子育てできる両立支援の充実で、その労働参加率がフランス並みに高まれば、最終的に約300万人の雇用増と年間11兆円規模の所得増となり、消費拡大につながるものと試算があります。

今年は当協会として、女性パワーの活用により協会の活性化を図りたいと考えております。2月のバンクーバーの冬季オリンピックでも、最近のゴルフにおきましても日本女性の活躍は大変心強いものがございます。会員会社の中でも女性の活躍が目覚しく、商工会議所、商工会など社会的な広がりのある団体では女性の課長やマネージャー、又、役員として経営の第一線を担当されている女性の方々が多数います。会員からの要望もあり、今回新に「女性懇話会」を創り、女性パワーを大いに発揮して頂いて、協会の活性化を図っていきたくと考えております。当面は20名程度のメンバーでスタートし、経営セミ

ナーや特別講演会、先進企業の視察、さらには他の経済団体の女性組織との交流など、多彩な活動を展開して行きたいと考えていますので、積極的なご参加をお願いいたします。

2. 協議事項

(1) 平成21年度事業進捗状況

(2) 平成22年度事業計画及び予算(案)について

上記2件の協議事項については、承認を得ましたので、会長・副会長会議に諮り、5月の定時会員総会に提案をさせていただくことになりました。



議事風景

3. 活動報告

- (1) 第17期労務管理改善協力委員会活動報告
- (2) インターンシップ受入企業開拓事業活動報告
- (3) 第43回三重労使会議
- (4) みえ雇用創出会議報告
- (5) 三重労使雇用支援機構
- (6) 委託事業報告
- (7) その他・連絡事項

以上の活動報告が事務局より報告されました。



理事会会場風景

特別講演会

中部経済のこれから

中日新聞経済部財界グループ担当キャップ 長坂 誠氏



中日新聞長坂講師

中部地域の製造品出荷額は、全国の約4分の1を占めており、「ものづくり」の地域である。中部地域は、県民所得も多く、持ち家率も高い地域で求人倍率も他の地域より高いので、他の地域から人も物も集まりやすい地域だと考えられる。名古屋のイオン大高にワーナーマイカルシネマが最新の設備を導入した映画館をオープンした。なぜ、名古屋の郊外にオープンしたかと言うと、周辺の開発が進み人口も増加している状況であるのも要因の一つである。製造業を中心に陰りがあるとも言えども、全国的にはまだまだ注目されている地域である。中国はこの地域の技術力にもものすごい関心があり、関心を引く位の地域である。最近、韓国や台湾は国内市場はあてにならず、優秀な人間は始めから海外に行くと言う事で、先を見越している。その結果、韓国は最近、インド・ロシア等に移行し、空港に降り立つと、液晶のテレビがずらりと並んでいる。そのテレビはサムスンである。物を売ると言う発想ではなく、ブランドを印象づけて売ると言う欧米的な考え方である。今後は、ブランド・パッケージを売ると言う考え方となる。最近ものづくりに暗雲が立ち込めている。それは、ものづくりを行う会社が、海外に移転し（例：中国）、移転した国の工賃が上がってきた為、再度、ベトナムに移転しようとした時、日本から技術指導が出来ない状況となってきた。技術伝承の問題である。再移転をする場合は、日本の技術者では無く、当初移転した国から再移転する国に技術指導を行う構図が出来てきている。海外移転は国内の空洞化となるがそれ以上に、技術の問題が大きい。中国においては、所得の二極化が進んでいる。中国人が日本に旅行に来て土産物を買うのは、必ず日本製を買い求める。やはり日本製は富裕層には信頼性があり、人気がある。中国は、アフリカに労働者ごと輸出する。

政情不安等があるが、資源確保の為に人材を送り込んでいる。資源を確保する為に、鉱山を買い付けたり、採掘権を確保したりしている。その為に、港・ダムを建設し発電設備を整備する等インフラの整備を行う。中国は国策的にこのような事業を行うが、日本は一企業等では出来ない状況で、入札で中国に負けてしまうこととなる。最近、色々な所で産・学・官の協力と言われており、もっぱら日本の場合には研究開発で使われることが多い。携帯電話の話をする時、当時日本の携帯電話は海外では使えないが、中国の携帯電話は使えた。中国は最初から世界標準で仕様を考えていたが、日本はそうではなかった。携帯電話の性能自体は劣らないがインフラの整備・規格で劣っていた様に感じる。これからの課題と、どう言うところに注目があるのかと言う事で、新規産業の創出や新興国経済の取り込みを殆どの経済団体が提言している。具体的には新規産業とは、航空宇宙の話で、特に注目しているのが、MRJと言う三菱が造る飛行機で、受注拡大で皆が支援している。宇宙でもロケットの部品の5割以上はこの地域で造られている。ただ、ロケット部品で商売にはならないが、ロケットに使用されていると言う事で品質を認められて、ブランドとしての評価となる。H2Aの種子島での打ち上げもロケット・打ち上げ自体も意義があるが、地元にとっては、観光振興の意味もある。既存技術の活用は、具体的には新幹線であり海外への高速鉄道の輸出である。JRが行っている既に有るものを売る。これは以前にはこの発想はなかった。観光を考えて見ると、観光に力を入れるには、中部地方は産業観光が良い。最近では広域的に行き、西日本も含めて外国人を誘致するようになってきた。実際どのような外国人が来るかと言うマーケティングが必要である。マーケティングは、現地の人の意見・感覚を聞かないと、良かれと思ってやっても伝わらない事が多い。製品開発におけるマーケティングも同じである。最近どの会合でもCOP10が秋に行われるので話題になる事が多い。環境がキーワードとなっているので、これを商売に活かさないかとか、企業活動に良いのか、どう言う商機があるのかとの話がある。結論から言うところどこも難しすぎてよく分かっていない。今言えるのは、リスク管理の為に勉強した方が良い。今後、デフレは続くだろう。これは、価格の決定権が、少なくとも日本ではなくアジアにある。最終的には通貨の問題になる。

(文責 事務局)

★トップ interview★



会員企業各社、トップの素顔に迫る「トップインタビュー」。第18回は経営者協会理事会社であります、旭ダイヤモンド工業株式会社 取締役三重工場長 奥井 威夫さんにお話を伺うことができました。

旭ダイヤモンド工業の活躍の場は、 産業と暮らしの全域に広がっています

旭ダイヤモンド工業株式会社 取締役三重工場長 奥井 威夫さん

～御社は、昭和12年(1937年)10月ダイヤモンド工具の製造販売を目的として、東京都品川区に会社を設立し、72年の歴史を誇る国内シェアNo.1のダイヤモンド工具の総合メーカーですが、創業から早い段階に上野工場(現三重工場(昭和18年(1943年)8月)を発足され、その後も中心的役割を担っておりますが、この三重工場についてお聞かせください。～

創業よりダイヤモンド工具で高い技術力を誇っていた当社に、昭和18年に内閣技術院より内閣総理大臣名で、極細線伸線用「ダイヤモンドダイス」製造の基礎研究を委嘱されたのが上野工場ができる発端となります。当時戦時下ということもあって、東京での工場建設は困難ということでもあり、また地元有力者の方々の要請や、空襲も少なく労働事情も良いということでこの地が選ばれました。翌年工場が完成し「ダイヤモンドダイス」の製造工場としてスタートしました。当時は作ればすぐ需要先に配給される仕組みでしたから、増産体制を組み、業界随一の生産量を記録しました。その後、さまざまな工具の開発、製造がおこなわれるようになり、昭和30年代に入り盛んに行われていたダム建設に伴うトンネル工事に、掘削機に取り付けられる先端の工具、「ダイヤモンドビット」の生産が隆盛を極めておりました。映画「黒部の太陽」で有名な「黒四ダム」の建設にも当社のダイヤモンドビットが大活躍しました。高度経済成長の波に乗り、マザー工場として地位を確立し、一時は当社製品の50%を超える生産を任されていた時期もあり着実に成長していきました。昭和59年には三重第2工場を竣工し、平成18年に三重工場と三重第二工場を統合した新三重工場を現在の場所に竣工し、国際化に対応したグローバルな工場として活動しています。

～ダイヤモンドという特別な素材から、様々な工具が作られ、私たちの生活の身近なところで御社の技術が使われた製品(液晶テレビやゲーム機など)が多数ありますが、その“ものづくり”について御社の取り組みをお聞かせください。～

切る、削る、磨くなどといった“ものづくり”の基本となる様々な生産工程において使われるダイヤモンド工具は、すべて受注生産なんです。しかも多品種少量生産ですので、“ものづくり”にはいろいろと苦勞があります。製造現場では、精密でクオリティの高い手作業の部分が多いので、技術の向上、育成に力を入れています。技能検定の取得を推奨しているのもその1つです。因みに当工場は、技能検定会場にも認定されています。また、生産効率の向上、コスト削減に向けた作業の標準化、単純化、そして専門性をうまく平準化できないか、日々取り組んでおります。

幅広い分野で当社のダイヤモンド工具が使われるように、新素材や技術革新の情報収集、お客様のニーズに合う高品質で安価な新製品の研究・開発にも注力しています。



三重工場

～採用にあたり、ダイヤモンドの4C（Cut、Color、Clarity、Carat）になぞらえて、「旭ダイヤの4C」を挙げていますが、このことについてお聞かせください。～

私共の会社は、無借金経営、独立独歩の精神や「ダイヤモンド以外の事業に手を出すな」という創業者の想いが脈々と受け継がれているんですね。そういったこともあって自主性・自立性を重んじる風土が社内にあります。旭ダイヤで働く社員として持っていただきたい4CはCommunicate（相手と理解し合い、信頼関係を築く）、Challenge（失敗を恐れずに、新しいことに挑戦する）、Create（柔軟な発想で考えて行動し、新しい価値を生み出す）、Contribute（ものづくりにこだわりを持ち、製品を通じて社会に貢献する）です。経済状況の厳しい中、外部要因で振り回されない企業作りに積極的に取り組んでいる当社にとって、原動力になる人材がこの4Cにあると考えています。

～御社の将来像についてお聞かせください。～

当社は、中期の経営目標のひとつとして「GLOBAL510（グローバルファイブテン）」を掲げております。これは、当社グループ全体の売上高を、世界のダイヤモンド工具の推定需要5,000億円の10%にあたる500億円を目指すというものです。現在、第一次中期経営計画「Innovation2011～自律的価値創造企業への変革～」を策定し、全社員で推進しているところであります。世界をリードする「グローバルダイヤモンド工具メーカー」へ進化し、いかなる経営環境にあっても安定して高品質の製品を顧客に提供し続けるとともに、健全な収益を上げることの出来る体制の構築に取り組んでいます。

～奥井工場長の休日の過ごし方についてお聞かせください。～

あれもやりたい、これもやりたいといろいろ構想はあるんだけど、なかなか最初の1歩を踏み出せなくてね。現役を退いたらやろうと後の楽しみにしています。（笑）最近では家でごろごろ過ごすことが多くて、時間を無駄に過ごしているなあと反省しています。（笑）趣味というのではないんですけど、古美術や骨董などの鑑賞が好きで、天気の良い日などは、気が向くと京都や奈良にふらっと出掛けたりします。博物館や美術館を巡ったり、寺で仏像を見たり、ぶらりぶらり1人のんびりと散策するのがいいですね。癒されます。私にとっての気分転換。エネルギーの充電にもってこいですね。（笑）



PCD&CBN切削工具



レンジボンドホイール



石材用ソーブレード（直径3m）



異形ダイス

◆奥井工場長略歴

昭和25年4月19日生

学歴

- 昭和48年3月 関西学院大学
社会学部 卒業

職歴

- 昭和59年12月 旭ダイヤモンド工業株式会社入社
- 平成13年7月 三重工場副工場長
- 平成18年7月 執行役員三重工場副工場長
- 平成20年6月 取締役三重工場長

第5回「三重県『産・学』就職情報交流会」開催

3月3日(水)～4日(木)の両日、三重地区学生就職連絡協議会共催、三重労働局・三重県の後援をいただき、鳥羽シーサイドホテルにおいて、第5回「三重県『産・学』就職情報交流会」が開催されました。

行政、企業の人事・採用担当者と、高等専門学校を含めた高等教育機関の就職担当者が、一堂に会する『産・学』就職情報交流会は、前回に続き、特別講演、産学による就職事情に関する発表、名刺交換会、2日目に産学によるグループディスカッションを開催し、熱い討議が行なわれました。

1日目は81名、2日目は50名の参加者が集い、就職、採用について有意義な意見交換の場になりました。



会場風景

【開催内容】

第1部 産学就職情報会議

1. 開会挨拶 三重県生活部 雇用特命監 葛西 正敏氏
2. 特別講演会

テーマ：『今後必要とされる人材と人材育成』

講師：(株)ビジネスコンサルタント

シニア・エグゼクティブ

コンサルタント 久保田 正孝氏

講演内容 ①トップが求める人材像

②従業員のモチベーション向上に関する取り組み

③各企業の採用に対する考え方など

3. 産学による発表会及び質疑応答

◎議事進行及び基調報告

(株)毎日コミュニケーションズ

キャリアサポート課長 浅川 克之氏

基調報告「来年度の就職動向について」

内容 ①2010年卒就職内定率の大きな落ち込み

中部地区2009年卒85.1%→2010年卒69.7%

②就職サイト掲載企業は対前年比85%

(2,722社減)

③企業の動向、学生の動向など

◎産学による発表会

企業側 「今、企業に求められる人材とは」

①三重平安閣(株) 専務取締役 川瀬 正美氏

②(株)トピア 取締役総務部長 小林 龍浩氏

内容：大学生等の採用の充足状況

大学生の就業意識の変化及びその対応

採用基準とそのポイント 等々



久保田講師（特別講演会）



三重平安閣(株)川瀬専務取締役



(株)トピア小林取締役総務部長

学校側 「キャリア教育とインターンシップの取り組み」

- ①三重大学 准教授 石阪 督規氏
- ②高田短期大学 准教授 高木 直人氏
- ③鈴鹿工業高等専門学校 教授 江崎 尚和氏

内 容：大学生等の内定状況（今期）

学校生活における就職支援（キャリア教育、就職活動支援ガイダンスなど）

内定辞退等について 等々

- 4. 閉会挨拶 三重県経営者協会「労務管理改善協力委員会」 会長 柳生 邦雄氏

第2部 産学名刺交換会

- 1. 挨拶 三重大学副学長 中川 正氏
- 2. 企業人事採用者と学生就職担当者による名刺交換会



三重大学中川副学長



名刺交換会風景

産学グループディスカッション（2日目）

テーマ：『今後必要とされる人材と人材育成』

- 第1グループ 座長：三重大学 准教授 石阪 督規氏
- 第2グループ 座長：(株)毎日コミュニケーションズ キャリアサポート課長 浅川 克之氏
- 第3グループ 座長：鈴鹿工業高等専門学校 教授 江崎 尚和氏



第2グループ浅川座長



グループディスカッション風景

三重経協活動報告

労務管理改善協力委員会

2010年春季労使交渉セミナー

～今後の経営戦略、あるべき姿を模索する～

2月25日(木)プラザ洞津3階「孔雀の間」において、労務管理改善協力委員会定例会議並びに、恒例の「2010年春季労使交渉セミナー」を開催いたしました。

当日は、定例会議27名、労管実務セミナーには、32名の参加がありました。



労管定例会議会場風景

柳生会長の挨拶に続いて、各部会の活動報告がなされ、事務局より連絡・報告事項として、各社人事異動にともなう委員・部員の変更と最終例会、第18期の労管発足についての説明がありました。

定例会議終了後、引き続き同会場で労管実務セミナー「2010年春季労使交渉セミナー」が開催されました。

開会挨拶の後、日本労働組合総連合会三重県連合会会長 土森 弘和氏より、『2010年労使交渉に臨む連合（三重）の基本姿勢』と題して、講演を伺いました。はじめに今年は連合三重結成20周年を迎えるに



連合三重土森会長



春季セミナー会場風景

あたり、キーコンセプトとして「優しさとつながり」の労働運動を求めていく考えが示されました。また、今春闘における取り組みとして、労働者の安心・安全な働き方暮らしの復元を実現するために、賃金水準の低下を阻止するため、賃金カーブの維持分（定昇）確保を図る。また、非正規労働者を含めた、すべての労働者を対象に処遇の改善、底上げを目指すなど具体的な方針を伺いました。



鈴木講師（日本経団連）

続いて、日本経済団体連合会労働政策本部 鈴木重也氏より『2010年労使交渉対応の考え方と具体策』をテーマに、最近の日本経済の動向、雇用情勢等について説明があり、労使交渉・協議に向けた基本姿勢、また、労使の「若年者の雇用安定に関する共同声明」についての説明を伺いました。また、労働関係法制の動きについても具体的な説明がなされ、人事・労務担当者にとって大変有意義な内容でした。

第43回 三重労使会議開催



土森連合三重会長から奥田会長へ要請書の受取

2月5日(金)鳥羽シーサイドホテルにて、第43回三重労使会議を経営者側10名、労働者側11名の出席者で開催されました。

経協奥田会長、連合三重土森会長両会長の挨拶の後、土森会長から奥田会長へ「2010年春季生活闘争に関する要請書」が手渡されました。次に特別講演

として、三重テレビ放送(株)常務取締役報道制作局長ちくじ築地 政彦氏より「2010年政局はどう動く」をテーマに、永田町の動き、小沢幹事長の動向など、政界の裏話を交え、今後の政局の動向について、講演を伺いました。その後、労使協働事業報告、労使双方による取組みの紹介が行われ、意見交換の後、夕食懇談会に移行しました。終始和やかな労使の情報交換が行われ、双方の理解を深める有意義な会議になりました。

■労使協働事業報告

- ①みえ雇用創出会議作業部会報告
- ②三重労使雇用支援機構活動報告
- ③地区労使懇談会経過報告

■労使双方による取組みの紹介

三重経協…(株)菊川鉄工所 総務課長 楠木真由美氏
連合三重…副会長 板垣 隆氏

(J P 労組三重県連絡協議会)

「取り組んでいますか仕事と生活の調和」シンポジウム開催

みえ雇用創出会議



シンポジウム会場風景

2月17日(水)ワーク・ライフ・バランスを推進するための環境整備事業としまして、プラザ洞津において、みえ雇用創出会議主催の「取り組んでいますか仕事と生活の調和」シンポジウムを下記のプログラムで開催いたしました。

また、当日の詳細は、当協会ホームページ (<http://mikekeikyو.jp>) からご覧いただけます。

当日は、約90名の参加者があり、大変有意義なシンポジウムでした。

○ プログラム

1. 主催者代表挨拶 (連合三重 土森会長)

2. 基調講演「ワーク・ライフ・バランス実践が
男女の働き方を変える」
講師：学習院大学経済学部教授 脇坂 明 氏
3. パネルディスカッション
テーマ：「仕事と生活の調和」
今後の取り組みについて
コーディネーター
学習院大学教授 脇坂 明 氏
パネリスト 三重労働局長 柳瀬 倫明 氏
パネリスト
(株)百五銀行人事部人事課調査役 北澤 浩二 氏
パネリスト 連合三重副会長 西井 達子 氏
4. パネルディスカッションまとめ



パネルディスカッション風景

改正労基法・改正育介法・説明会及び施行直前準備セミナー

～就業規則・労使協定の見直し方法と留意点～

1月27日(水)プラザ洞津2階「高砂の間」において「改正労基法・改正育介法・説明会及び施行直前準備セミナー」を下記のプログラムで開催いたしました。



直前セミナー会場風景

第1部では、各改正法の説明並びにポイントについて三重労働局の担当官よりわかりやすい説明を伺い、第2部において、西澤弁護士より就業規則・労

使協定の見直し方法と留意点の説明を受けました。直前セミナーということもあり、講師の説明に聞き入っている参加者が多数おり、その後の質疑応答でも、活発な遣り取りがおこなわれました。

当日は、約37名の参加者があり、実務に即した大変有意義なセミナーでした。

■プログラム

第1部（説明会）13:30～15:00

①改正労働基準法のポイントと企業の留意点

三重労働局監督課長 紀伊 洋一氏

②育児・介護休業法改正について

三重労働局雇用均等室長 鈴木 里美氏

第2部（セミナー）15:00～17:00

「改正労基法に対応した就業規則・

労使協定の作成方法」

楠井法律事務所 弁護士 西澤 博 氏

四日市・津就職面接会開催

地域団塊世代雇用支援事業として、1月28日(木)四日市市文化会館、2月23日(火)三重県総合文化センターの2会場において「中高年齢者就職面接会」を開催いたしました。

各会場ともハローワークとの共催で、中高年齢者の再就職希望者を対象に、下記の参加企業、参加者

が集いました。当日は事業所ごとの個別席にて人事担当者と面接を行いました。また、起業支援コーディネーター中田 勝仁氏（中小企業診断士）による起業相談会及びキャリアカウンセラーによる再就職に関する相談・助言も同時に開催いたしました。



■四日市会場

参加企業 28社

参加求職者数 341名



■津会場

参加企業 28社

参加求職者数 283名

「スタイル」が変わっても



株式会社 安永
人事グループ長
山本正仁氏

野球・サッカー・卓球・テニス等、子供の頃から体を動かすことは好きなのですが、飽き性なのか冷めやすいのか、たまにするくらいの程度で長く続けているものは数少ない。しかし、これだけは続けたいと思えるのが「スキー」なのです。冬季限定であることと、自然の中での運動というのが自分に合っているからだと思います。

今年はバンクーバーでのオリンピックの開催もあり、ウィンタースポーツも浅田真央選手や上村愛子選手等の活躍もあって、脚光を浴びました。しかし、日本のスキー人口は90年代前半には約1800万人まで上っていましたが、バブル崩壊後には一気にスキー人口も減り始め、さらに若者を中心に人気のスノーボードの出現もその一因となって、現在はスキーとスノーボード両方を合わせても1200万人程度で、ピーク時に比べ大幅に減少しているようです。

スキーを始めた学生の頃は、板を肩に、重いキャスターバッグを引き摺りながら夜行バスツアーでよく信州方面へ出発したものでした。当時、大ヒットとなった映画「私をスキーに連れてって」が火付け役となり、スキーブームの到来です。また、映画の影響とバブル景気の最中もあってか、バスツアーから四輪駆動のマイカーでの移動に様変わりし、自身もその憧れもあって、友人と車数台を連ねてユーミン（松任谷由実さん）のカセットテープとトランシーバーを準備し、毎週出かけておりました。ところが、スキー場へ向かう車の大渋滞、長時間のリフト

待ち、レストランでは長蛇の列。どこもかしこも大渋滞です。ゲレンデでも仲間を探すマイク放送が時折流れていましたが、今はそんな待ち時間も心配することなく、携帯電話片手にリフトに乗っている姿が目立ち、ゲレンデのスタイルも変わってきました。

スキーの板もスタイルを変え、当時はこぞって「長い板」を使っていましたが、現在は、わずかな体重移動で簡単に曲がれるのが特徴であるサイド曲線のキツイ「カービングスキー」が主流で、私なりにその感覚を世代別のシンガーに例えてみると、「ユーミン」と「くぅちゃん（倅田來未さん）」ほどの違いがあり、この板の登場に驚かされつつも、決して上手くはない私には強い味方になっています。（最近では、より簡単になったスキーを再開し、温泉のあるスキー場で逗留する40代～50代の大人のスキーが秘かなブームとなってきているようです。）

2人の娘には幼少の頃から「ソリ」ではなく、スキー板を履かせて滑らせていたこともあり、スキーツアーは家族みんなで楽しめる毎年の行事となっております。雪に恵まれた今シーズンも恒例ツアーを開催し、ゲレンデに足を運んだのですが、娘たちは腕を上げる一方、私はイメージしている動きとは裏腹に、身体が全く同調せず、日頃の運動不足と年令をハッキリ思い知らされるのです。しかしながら、雪景色の中で雪上を滑る爽快感とその後の食事+温泉が何よりの楽しみでもあり、最近はその後の楽しみの方が高いウエイトを占めています。

偉大なプロスキーヤーの三浦雄一郎さんの言葉に「老いは怖くない。目標を失うのが怖い。何のために長生きしたいのか。健康の先に何を見たいのか。その目標がはっきりしないと、ただの怠け者になってしまう」とあります。

その言葉にヒントを得て、これからもスキーへのスタイルと身体スタイルが変わっても、無理せず新たなスタイルも取り入れて、長く続けていこうと思っております。

Vol.2 鈴鹿国際大学

多国籍なキャンパスで、「世界」「人間」「観光」の理解を深める

鈴鹿国際大学は、国際人間科学部に国際学科と観光学科があります。国際学科には、英米語コース、国際ビジネスコース、国際地域文化コース、心理・スポーツマネジメントコースの4つのコースがあり、ハイレベルな語学力を身につけるとともに、世界情勢をテーマにグローバルな視野も養成し、日々変化する国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。観光学科では、接客をはじめとする実務能力、語学力、新たな観光を創造する企画力を、ホスピタリティビジネス、トラベルサービス、観光まちづくりといった3つのテーマで学び、観光・ホスピタリティ業界を担う人材の育成を目指しています。



産学官の連携による実践的な学び —白子観光パンフレットの作成—

観光学科では、学際的な学問である観光学を学ぶうえで、地域の方々や自治体、観光産業界との連携を図っています。その一環として、旧伊勢街道宿場町の面影を残す鈴鹿市白子地区の観光パンフレットを作成する実習を行い、その活動の様子を「SUZUKA産学官交流フォーラム」などで発表しました(写真)。

このパンフレットは、取材から編集・レイアウトまで、すべて学生の手づくりで作成したもので、鈴鹿市観光まちづくり委員会に印刷していただきました。また、この実習を契機として、白子地区のイベントに学生がボランティアスタッフとして参加するなど、活動の輪が広がっています。

観光学科では「現地・現場で学ぶ」を基本的な考え方の一つとして、この他にも本学の留学制度を活用した海外生活体験、ホテルや旅行会社などでの研修や観光地の視察などを行い、教室の授業で学んだことを現実の場で応用しながら体験的に身に付けることができるようにカリキュラムを編成し、観光業だけではなく、ひろく人と接する産業界で活躍できる人材育成に取り組んでいます。



「一地域に開かれた大学作り— 地域・ゆめキャンパス」

地域社会に貢献できる開かれた大学づくりとして、多文化共生社会の実現という目標に向けて、学生ボランティアを教育機関や地域へ派遣をする「グローバルスタディー」や、今年度から新事業として「i・e・e(イー) study」という体験型国際理解教育プログラムを開始し、教職員と学生が協力して国際理解教育を行います。

依頼により、本学の教員がテーマにそって出張講座をさせていただいたり、本学の留学生を派遣し多文化理解教育の一環として、文化・習慣などの違いや、自国の紹介や言葉など様々な内容に対応しています。また、本学に来ていただきキャンパス内での交流などを実施しています。



お問い合わせ 鈴鹿国際大学
鈴鹿市郡山町663-222
電話 059-372-2121

会員発HOTニュース

会員企業の最新HOTニュース(企業PR・店舗紹介・新商品・新サービス・新装オープン等)をお届けいたします。

■事業案内 (アミカン株式会社)



アミカン株式会社

〒510-8007 四日市市富田浜元町11-12
 TEL 059-365-1111 FAX 059-363-1384
 E-MAIL: amikan@cty-net.ne.jp
 URL: http://www.amikan.com



漁網



土木資材(コンボーズネット)



石油精製プラント



フィットネスブルバード

当社は創業が1794年(寛政6年)の製網会社ですが、現在は製網部、工事部、人材派遣部、スポーツ事業部の四部制で運営しています。製網部は漁網及び陸上綱の製造販売輸出、工事部は石油精製プラントの配管・保守工事、人材派遣部は製造会社への労務派遣、スポーツ事業部はトップスイミングクラブとフィットネスブルバードの経営です。

■大学紹介 (三重大学)



〒514-8507 津市栗真町屋町 1577
 TEL: 059-232-1211
 http://www.mie-u.ac.jp/

【大学PR】

「三重の力を世界へ 地域に根ざし
 世界に誇れる独自性豊かな教育・
 研究成果を生み出す
 ～人と自然の調和・共生の中で～」

三重大学は、教育目標に総合的な人間力(考える力、感じる力、コミュニケーション力を通して生きる力)の育成を掲げ、課題探求心、問題解決能力、研究能力を養うための教育カリキュラムを展開し、教育成果を上げています。また、2009年4月より「地域イノベーション学研究所」を新設し、幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、社会に積極的に貢献できる「人財」の育成に努めています。



■合併のお知らせ (三交不動産株式会社)

2010年4月1日、三交不動産株式会社と三交ホーム株式会社は合併し、あらゆるご要望にお応えできる住宅・建設・不動産の総合企業「三交不動産株式会社」として新たにスタートします。

2010.4.1 START 新・三交不動産株式会社、始動。



その先の夢にむかって。

子どもたちが大きく育つ家をつくりたい、よりアクティブに生活を営みたい、経営者ならではのゆとりを求めたい……。それぞれ異なる真の夢をしっかりと受け止めて、お互いの夢を叶える方法で対応して、その人の心と体・魂に寄り添ったサービスを提供する。三交不動産株式会社と三交ホーム株式会社は、これら多岐にわたるご要望にお応えできる総合的な生活企業として新たな第一歩を踏み出します。私たちの夢は、明日と近い未来。一人ひとりの夢を、時代を超えてつなぐ。私たちのために、互いの夢を叶える責任をしっかりと果たし、お互いに寄り添った夢を叶えたい。どうか新しい私たちの活動にご注目ください。

三交不動産株式会社



三交不動産 × 三交ホーム
 合併記念キャンペーン開催
※詳しくは、お電話にてお問い合わせください。

※ご応募はメール(hotnews@miekeikyo.jp)で承ります。詳細はメールでお知らせします。(掲載は応募順)

インターンシップ受入企業開拓事業（厚生労働省より委託）終了のお知らせ及び （新規）大学等インターンシップ受入企業開拓支援事業（三重県より委託）受託のお知らせ

当協会では平成13年から厚生労働省より、「インターンシップ受入開拓事業」を受託し、インターンシップの普及・促進に向けての支援活動を積極的に進めてまいりましたが、同省が平成21年度をもって同事業を終了することに伴い、当協会といたしましても平成22年3月末日をもって終了させていただくことになりました。

受入企業の皆様方におかれましては、多大なご協力を頂きましたことに深く感謝申し上げます。

新たに三重県より「大学等インターンシップ受入企業開拓支援事業」を受託し、おしごと広場みえと協力し、これまで通りインターンシップ事業を継続していくこととなりました。

受入企業及び大学等のインターンシップ担当責任者の皆さまにおかれましては、何とぞ今後の事業方針に対するご理解を頂き、引き続きインターンシップの実施及び受入機会の提供等にご協力賜りますようお願い申し上げます。

厚生労働省委託

一般事業主行動計画策定等支援事業

次世代育成支援対策推進法の一部改正により、平成23年4月1日から、一般事業主行動計画の策定・届出の義務づけ範囲が、常時雇用する従業員数が301人以上の事業主から101人以上の事業主に拡大されます。策定・届出まで1年を切りました。前年度に引き続き三重県経営者協会は、厚生労働省の委託事業として、一般事業主行動計画の策定・届出に対する下記の支援事業を行います。

皆様の御協力よろしくお願い致します。

【事業内容】

一般事業主行動計画の策定等支援

対象企業への個別企業訪問や講習会等の実施により、一般事業主行動計画の策定・届出に対する支援を行います。

一般事業主行動計画の策定・届出状況等に関する調査の実施

一般事業主行動計画の策定・届出状況等を把握するためのアンケート調査等の実施、好事例集等の作成をします。

地域情報の提供

一般事業主行動計画の策定・届出を促すため、事業主をはじめ広く地域全般に、地域の認定企業や地域企業における次世代育成支援の取り組み等について情報を発信します。

お問合せ：三重県経営者協会 一般事業主行動計画策定等支援事業

コンサルタント：沢 勝弘・小林 篤郎 担当：中村 宏行

電話：059-223-0222 FAX：059-223-0224

〒514-0033 三重県津市丸之内9番18号 津丸の内ビル3階

短時間労働者を雇用する事業主の皆様へ

- ◎短時間労働者を雇用する場合でも、就業条件の明示等が必要です。
(労働基準法、パートタイム労働法)
- ◎短時間労働者であっても31日以上雇用見込みのある者は、雇用保険の被保険者となります。
(雇用保険法 平成22年4月1日施行)
- ◎短時間労働者数も障害者雇用率にカウントされることになりました。
(障害者雇用保険法 平成22年7月1日施行)

— お問い合わせ先 三重労働局企画室 電話：059-226-2110 —

労働者・求職者・事業主の皆さまへ

平成22年4月1日から雇用保険制度が変わりました!

●非正規労働者の方の雇用保険の適用範囲の拡大

◇短時間労働者の方、派遣労働者の方の適用範囲を以下のとおり拡大しました。

- 【旧】 ○ 6ヶ月以上の雇用見込みがあること
○ 1週間の所定労働時間が20時間以上であること



- 【新】 ○ 31日以上の雇用見込みがあること
○ 1週間の所定労働時間が20時間以上であること

●雇用保険料率の変更

- ◇失業等給付に係る雇用保険料率に変更になりました。
(一般の事業の場合：0.8% (平成21年度1年間の暫定措置) → 1.2% (平成22年度) を労使折半)
- ◇その他、事業主の方には、雇用保険二事業に係る雇用保険料率 (平成22年度は、一般の事業の場合、原則どおりの0.35%) を負担していただく必要があります。
⇒平成22年度の雇用保険料率 (一般の事業) 1.55% (事業主負担分：0.95%、労働者負担分0.6%)

●雇用保険に未加入とされた方の遡及適用期間の改善

- ◇事業主から雇用保険被保険者資格取得届が提出されていなかったために、雇用保険に未加入とされていた方は、これまで被保険者であったことが確認された日から2年前まで雇用保険の遡及適用が可能でした。
- ◇施行日^(※)以後は、事業主から雇用保険料を天引きされていたことが給与明細等の書類により確認された方については、**2年を超えて雇用保険の遡及適用**が可能となります。
※施工日とは…公布日 (平成22年3月31日) から9ヶ月以内の政令で定める日をいいます。

詳しい改正内容などについては、最寄の公共職業安定所 (ハローワーク) におたずね下さい。
また、改正内容については、厚生労働省ホームページにおいても確認ができます。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/koyohoken.html>



厚生労働省 / 都道府県労働局 / 公共職業安定所 (ハローワーク)



新会員の紹介

株式会社アイティービー

事業内容 CATV局
 代表者 代表取締役社長 小木曾 靖夫
 所在地 伊勢市神田久志本町1313番地2
 電話 0596-27-0700
 F A X 0596-21-0566
 ホームページ <http://www.itv-mie.jp/>



株式会社三交コミュニティ

事業内容 不動産管理業
 代表者 取締役社長 角 健司
 所在地 津市丸之内9番18号
 津丸の内ビル6階
 電話 059-253-4051
 F A X 059-246-5550
 ホームページ <http://www.sanco-com.co.jp/>



れんらく・つうしん

平成22年度定時会員総会・特別講演会

- ◆日程 平成22年5月19日(水)
- ◆開催場所 プラザ洞津3階 孔雀の間
- ◆内容 平成22年度定時会員総会 (14:00～)
 - ・平成21年度事業報告
 - ・平成22年度事業計画 など

株式会社セブン-イレブン・ジャパン 第3リクルート部東海地区三重

事業内容 小売業
 代表者 オーナー募集三重担当 築地 伸和
 所在地 名古屋市東区葵2-11-24
 電話 052-979-2381
 F A X 052-935-1207
 ホームページ <http://www.sej.co.jp/owner>



日東カストディアル・サービス株式会社 三重営業所

事業内容 総合ビルメンテナンス
 代表者 所長 増井 隆志
 所在地 津市羽所町515 第2いけだビル5階
 電話 059-221-0668
 F A X 059-229-0600
 ホームページ <http://www.nitto-cs.jp/>



特別講演会 (15:00～)



(仮題)『言葉はプレゼント』
 ～女性アナウンサー奮闘記～

講師：稲葉 寿美氏

(フリーアナウンサー)

- ・三重テレビ「とってもワクドキ」メインキャスター
- ・元東海テレビアナウンサー

ご存知ですか…こんな機関？

出向・移籍支援事業

「失業なき労働移動」をめざして

人材
送出
企業

- 人員に余剰感がある
- 雇用調整を検討している

- 一時的に仕事量が減り社員の出向先を探しておられる企業
- 支店閉鎖、工場閉鎖などで社員の移籍先を探しておられる企業
- 工場移転を計画されており人材の過不足が発生する企業
- 不採算部門があり人材の移動を考えておられる企業
- 事業規模の縮小を計画されている企業
- 65歳までの継続雇用が自社内では困難で、該当者の再就職を支援したい企業

産業雇用
安定センター
三重事務所



人材
受入
企業

- 事業の拡大、欠員発生などにより、必要な要員を確保したい企業
- 新規部門に精通した人材を採用したい
- 経験豊富な即戦力の人材を確保したい企業

- 人員が不足している
- 人材の補充を検討している

企業ごとの話し合い・面接

無料

出向・移籍の成立

当センターをご利用いただく場合は
前もってご連絡ください。

(財)産業雇用安定センター 三重事務所
TEL 059-225-5449

業務日誌
DAILY

事業名	とき	ところ	
改正労基法・改正育介法・説明会及び施行直前準備セミナー	1/27(水)	プラザ洞津	経 協 関 係
四日市地区中高年齢者就職面接会	1/28(木)	四日市市文化会館	
第2回好事例集検討委員会(一般事業主行動計画策定等支援事業)	1/29(金)	プラザ洞津	
第43回三重労使会議	2/5(金)	鳥羽シーサイドホテル	
日本経団連理事会・地方経協専務理事会	2/16(火)	日本経団連会館	
シンポジウム(みえ雇用創出会議)	2/17(水)	プラザ洞津	
津地区中高年齢者就職面接会	2/23(火)	三重県総合文化センター	
労管定例会議・2010年春季労使交渉セミナー	2/25(木)	プラザ洞津	
第5回三重県『産・学』就職情報交流会	3/3(水)~4(木)	鳥羽シーサイドホテル	
第4回70歳まで働ける企業創出事業推進委員会 理事・役員会及び特別講演会	3/17(水) 3/25(木)	プラザ洞津 プラザ洞津	



三重県経営者協会

TEL 059-228-3557

FAX 059-228-3710

ホームページ

<http://miekeikyo.jp>

E-mail

info@miekeikyo.jp

平成22年4月22日 発行
発行人/三重県経営者協会

〒514-8691 津市丸之内養正町4-1 森永三重ビル3F